

麦の新品種や高品質安定生産技術に関する検討会を開催

(いばらき農業アカデミー 品目別先進農業技術講座)



本県では、麦茶用大麦として「カシマゴール」、パン用小麦として「ゆめかおり」などが栽培されていますが、次のような課題や要望があります。

- ・「カシマゴール」：特定の病気に弱く、生産量が不安定
- ・「ゆめかおり」：水田転換畑における高品質安定生産技術の開発

そこで、今回「カシマゴール」の代替品種として有望な新品種「カシマホープ」や、「ゆめかおり」の高品質安定生産に向けた最新の研究の取組について、生産者や関係機関へ紹介するとともに、意見交換を行いますので、是非ご取材頂きたく、ご案内いたします。

記

1 日時

令和8年5月22日(金) 13:30~15:45 (受付開始 13:00)

2 場所

農業総合センター農業研究所 本館3階大会議室・ほ場
(水戸市上国井町 3402)

受付：本館3階大会議室 (本館は、正門から入り、右手の3階建て建物)

3 参集範囲

県内麦生産者、農業関係団体、県関係機関 等

4 内容

(1) 室内検討 (13:30~15:00)

- ・麦茶用大麦の新品種「カシマホープ」について
- ・パン用小麦「ゆめかおり」の水田転換畑における高品質安定生産技術について
- ・小麦の赤かび病防除技術について

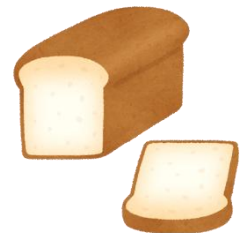
(2) ほ場見学 (15:10~15:45)

麦栽培ほ場見学

※ご取材頂く場合は、前日までに下記問い合わせ先までご連絡ください。

※当日は、ほ場見学もあるため、汚れても良い服装・履物でお越しください。

※荒天の場合、ほ場見学の実施可否は室内検討時にお知らせします。



【お問い合わせ先】

茨城県農業総合センター農業研究所

担当：研究調整監 皆川

TEL：029-239-7211

e-mail：h.minakawa@pref.ibaraki.lg.jp

麦類の有望系統選定試験(奨励品種決定調査)について

一定の要件を満たす優良な品種は、種苗法に基づく「品種登録制度」によって「品種」として登録されます。本研究所では、稲や麦、大豆などの作物について、品種登録される前(これを「系統」といいます)の段階から栽培試験を行い、将来、品種登録された際に迅速に普及できるように、本県における栽培適応性を調査しています。

また、本県では、稲や麦、大豆など作物について、条例により、生産性の向上及び品質の改善を図るために県内に普及すべき優良な品種を「奨励品種」として指定することを定めています。新品種が「奨励品種」として適しているかどうかの判断材料の一つとして、本研究所による調査結果が用いられています。

麦茶用の新品種「カシマホープ」について

令和8年度に新たに奨励品種として採用した「カシマホープ」は、農研機構が育成した麦茶用大麦の新品種です。オオムギ萎縮病に強く、細麦が少ないため調製歩留まりが高いことが特徴です。

従来の奨励品種「カシマゴール」(平成22年指定)は県内大麦作付面積の約8割を占めていますが、近年産地で問題となっているオオムギ萎縮病に弱く生産量が不安定であること、また細麦が多く調製歩留まりが低いことが課題となっていることから、「カシマホープ」はこれらの課題を解決する品種として期待されています。

パン用小麦「ゆめかおり」について

「ゆめかおり」は平成22年から県の準奨励品種に指定され、県西地域を中心に栽培されています。タンパク質含有率が高く、製パン性に優れる品種です。一般的に排水性が良く肥沃な畑地での栽培が適していますが、国内産の小麦の需要の高まりによる生産拡大のため、水田転換畑での高品質安定生産技術が求められています。

麦類の赤かび病について

糸状菌(かび)の一種が引き起こす病害で、発病すると穂が褐変し桃色のかびを生じます。赤かび病菌が産生するかび毒は人畜が摂取すると吐き気、嘔吐等の中毒症状を引き起こすため、食の安全性の観点からも防除対策が不可欠な重要病害です。



麦茶用大麦「カシマホープ」



パン用小麦「ゆめかおり」



小麦の赤かび病



麦類の赤かび病菌